

各巻ごとの分売可

十五年戦争 重要文献 シリーズ 不二出版

本書は日本学術会議 原子爆弾災害調査報告書刊行委員会が一九五一年から五三年にかけて、広島と長崎に投下された原子爆弾災害を、学会をあげて真相解明に迫った、総合的報告集である。福島第一原発で不幸にも繰り返された放射能禍の悲劇を、その原点に立ち返って検証。

補集1

『原子爆弾災害調査報告』全5冊

第1回配本 第1冊Ⅱ本体1、5000円＋税

◎解題 大滝英征

◎本体価格

第2回配本

第2冊・第3冊Ⅱ30、000円＋税

第3回配本

第4冊・第5冊Ⅱ30、000円＋税

★十五年戦争重要文献シリーズ全20集の完結後、新たに発見・発掘された資料・文書を補集として解説等を付して復刻刊行！

●復刻の辞

本書は、日本学術会議 原子爆弾災害調査報告書刊行委員会が1951年から1953年にかけて刊行した、広島と長崎に投下された原子爆弾災害に関する報告書の復刻版である。原本は三冊、1951年に刊行された「原子爆弾災害調査報告書 総括編」と1953年に刊行された「原子爆弾災害調査報告集 第一分冊」及び「同 第二分冊」で構成されている。

当時の日本学術会議会長であった亀山直人は総括編の「序文」で、その経緯と意義について、左記のように述べた。

「第二次世界大戦の終止符を打つたものは、広島と長崎に落された原子爆弾であった。この爆弾の災害は人類初めての経験であり、われわれは、これがまた人類が経験する最後のものであることを切望して止まない。

この災害の経験は、誠に不幸のことではあるが日本独得のものである。これを学術的に観察調査し且つ記録して後の参考にすることは、愉快ではないけれども、日本の科学者の任務に違いない。その総合的調査のため、昭和20年9月14日、当時の学術研究会議は原子爆弾災害調査研究特別委員会を設け、学術研究会議会長がその委員長となり、医学、理工学及び生物関係、合せて9分科会において急速に調査を行つた。……」

そして、亀山は「序文」の最後を下記のように結んでいる。この結びの言葉は、1953年に刊行された第一分冊及び第二分冊の「序」においても引用され強調された言葉でもあった。

「原子爆弾は二度と繰り返へされ度くない悲しい経験であるが、この学術的研究調査の結果が利用せられ、悲しい災害を導ひて社会の福祉増進のために利用せられれば、幸ひこれに過ぐるものはなからう」

私たちは、今回の福島原発事故に対してどのように向き合えばよいか。この報告書の中に多くの示唆があると確信し、復刻刊行する次第である。

不二出版

●推薦の辞

明日への鏡として

西田 勝

（文芸評論家・非核ネットワーク代表世話人）

今から25年ほど前、北陸は新潟から福井まで、東北は福島を起点にぐるりと奥羽山脈をまわって山形まで「反核漫談 魚が食べられなくなる日」と題して話して歩いたことがあった。核戦争の危機や原発事故から日本は安全かというのが「漫談」の趣旨だった。チェルノブイリ事故が起きた直後のことである。

2011年3月11日、果たして、ついに「その日」がやって来て、まだ局地的だが、「魚が食べられなくなる日」が来てしまった。海の魚だけではない。鮎やヤマメも食べられなくなってしまった。牛乳だけではなく、牛そのものも処分しなければならなくなってしまった。

私は現在、東京デイズニールランドの東側に住んでいるが、なお「液化化」の跡を残しているスパーに行ってみると、女性たちは産地の表示に眼を凝らし、東日本産の野菜や魚類には手を伸ばさず、東海地方か西日本産、あるいは韓国や中国産のものを慎重に選んでいる。しばらく前までは、中国産の野菜や貝類にナーバスなほどに強い警戒心を持っていたのに。それだけではなく、西日本に幼い子供たちを、外的・内的被曝から守るために送り出したり、家族ごと住居を移している人も増えている。

放射能は眼に見えず、臭いもなく、しかもその人体への破壊的な作用は10年、20年と長期に及ぶ。人間にとって——もちろん、生物にとっても、実に厄介な代物だといわなくてはならない。

日本人にとって、このような大量に放射能を浴びたのは、今回の「フクシマ」が最初ではない。私たちは、すでにヒロシマやナガサキを体験している。

今、核による被害の真相に対して民衆の接近を好まない勢力によって社会の片隅に押しやられてきたドキュメント——広島や長崎での原爆投下もたらした被害について日本の科学者たちが、その直後に組織的・体系的につきとめようとした報告書である、その「原子爆弾災害調査報告」が復刻され、多くの人が簡単に手に取ることが可能になった。

私たちは、この人類文明の核時代にどう対処していくべきか、この調査報告書を鏡に、私たちの「フクシマ」体験に向き合っていかなければなるまい。

●内容見本

原子爆弾放射線病の臨床

原子爆弾災害調査特別委員会醫學科會
原子爆弾放射線病研究班報告書

東京帝國大學教授 佐々貫之編

目 次	
1 緒 言	11 尿所見
2 原因的事項	12 神経系症状
3 臨床像概要	13 皮膚症状
4 一般症状	14 性器症状
5 口腔症状	15 眼科學的所見
6 血液所見	16 耳鼻咽喉科學的所見
7 出血症状	17 合併症
8 消化器症状	18 死亡及び豫後
9 循環器症状	19 治療
10 呼吸器症状	20 結 語

1 緒 言

昭和 20 年 8 月 6 日午前 8 時 14 分一發の原子爆弾が広島に投ぜられた。續いて 8 月 9 日午前 11 時 30 分には第二發が長崎に投下された。之等二發の爆弾は有史以來の甚大なる被害と高價なる經驗を人類に與えたのである。當時恰も戦争の末期的混亂の中にあり、

「原子爆弾災害調査報告書 総括編」より

●推薦の辞

原爆体験から、何も学ばなかった日本人

矢吹 晋

（横浜市立大学名誉教授）

フクシマダイイチのショックに接して、メルケル首相は脱原発を決定した。歴史的経緯を踏まえた英断と評すべきだ。本来ならば、放射能ショックがドイツに届く前に、日本人が決断すべき事柄ではないかと思う。

ドイツとイタリアが世界に先駆けて脱原発を決めたことの意味を日本人はかみしめるべきだろう。いうまでもなくドイツ、イタリアは第二次大戦の戦敗国であり、核兵器保有は国際政治上許されない。すなわち核兵器を断念し、原子力は「平和的利用」に限られるという意味である。

原子力は元來殺傷兵器として開発された。核兵器の副産物としての原発は、そもそもコスト計算になじまない。これを証明したのが福島の事故と見るべきだ。国家や民族を守る大義のためには、あえてコスト計算を無視するのが戦争の論理にほかならない。

NHKスペシャル「封印された原爆報告書」（2010年8月6日放映）で伝えられたように、アメリカ国立公文書館のGHQ機密資料には、181冊、1万ページにもおよぶ原爆被害の調査報告書が収録されている。この報告書は、敗戦直後に日本の医師や科学者らによって行われた調査の記録であり、英訳されアメリカに提供された。

この番組では、当時山口医学専門学校の19才の学生だった門田可宗さんが病床から広島での「入市被曝」について語り、ナレーターは、「この門田可宗『病床日記』は、入市被曝の証拠だが、厚生省はいまだにその因果関係を認めていない」と説明した。NHK取材班が米公文書館まで出向いて、英訳された文書を調べた努力は買うが、英訳の元になった報告書の大部分は1951〜53年にすでに日本で出版されていた。本シリーズがその報告書である（ただし門田日記は含まれていない）。

今回の被曝データをアメリカは徹底的に分析して殺傷能力のより強い核兵器を開発し続けた。遺憾ながら、今回のデータが「治療の手引き」として用いられることはなかった。フクシマダイイチで不幸にも繰り返された放射能禍の悲劇を、その原点到立ち返って克服する視座を今回の報告書から獲得したいと切に願う。

序

さきに『原子爆弾災害調査報告書(総括編)』を刊行し、広島・長崎両市に投ぜられた原子爆弾による災害の実相を、学界および一般に公表した。これはわが国だけでなく世界各国の少なからぬ注目を浴びた。なかんずくドイツにおいては、これの全訳の申し出があり、われわれはそれを快諾した。原子爆弾の惨害を科学的に紹介することによって、いくぶんでも世界の平和に貢献できるならば、私どもにとり何よりのよろこびである。

その総括編の序文において私は、近くその詳しい報告書全部が刊行される見込がついていることを明らかにしておいたが、幸い文部省から研究成果刊行費の補助を受けることができたので、急速にその刊行を進めることとなつた。当時の調査班員はすでに分散しているので、連絡にも相当困難を生じたのであるが、人類史上はじめてのこの災害を世界に公知し、禍を転じて平和への礎石としたい念願から、本報告集の刊行を急いだのである。幸いに元東京大学教授都築正男博士を主班とする刊行委員会のご尽力によつて、その完成を図ることができた。

本書に収めた資料は実に膨大なものであり、本書いよいよ成るに当つて、刊行のための補助費を交付せられた文部省、ならびに直接刊行のため尽力せられた刊行委員会の方がたに深く感謝の意を表するとともに、私はここに再び総括編にかかげた序文の一節を繰り返して、この書を学界ならびに一般に送りたい。「原子爆弾は二度と繰り返されたくない悲しい経験であるが、この学術的研究の結果が利用せられ、悲しい災害を導いて社会の福祉増進のために用いられるならば、幸いこれに過ぎるものはなかるべし」。

1953年3月

日本学術会議原子爆弾
災害調査報告書刊行委員会

委員長 亀山直人

『原子爆弾災害調査報告集 第一分冊』より

緒言

1. 本書は原子爆弾災害調査研究特別委員会関係者が、昭和20年8月上旬広島市および長崎市において発生した原子爆弾の爆発による災害について、調査研究して得た成績の報告を集録したものであって、さきに刊行された『原子爆弾災害調査報告書(総括編)』記述の資料となつた報告書その他を集めたものである。

2. 原子爆弾災害調査研究特別委員会は、文部省学術研究会議が、昭和20年9月原子爆弾の災害を総合的に調査研究するために、特別に設けた委員会であつて、学術研究会議会長東京帝国大学名誉教授林春雄を委員長とし、次の9科会をもつて構成せられた。

- (1) 物理学化学地学科会(科会長:東京帝国大学教授,西川正治)
- (2) 生物学科会(科会長:東京帝国大学教授,岡田要)
- (3) 機械金属学科会(科会長:東京帝国大学教授,眞島正市)
- (4) 電力通信科会(科会長:東京帝国大学教授,潮藤象二)
- (5) 土木建築学科会(科会長:東京帝国大学教授,田中豊)
- (6) 医学科会(科会長:東京帝国大学教授,都築正男)
- (7) 農学水産学科会(科会長:東京帝国大学教授,雨宮育作)
- (8) 林学科会(科会長:東京帝国大学教授,三浦伊八郎)
- (9) 獣医学畜産学科会(科会長:東京帝国大学教授,増井清)

かくして、わが国学者の総力を挙げて、災害の真相を明らかにすべく、それぞれ専門領域における調査研究に従事するとともに、完全な総合研究成績を得るよう努め、昭和22年度末まで3カ年にわ

『原子爆弾災害調査報告集 第一分冊』より

原子爆弾災害調査報告集

目次

第一分冊

理工学編

1. 広島原子爆弾災害報告 1
大阪調査団団員
海軍薬劑少佐 山岡 静三郎 海軍軍医少佐 山田 正明
海軍軍医中尉 桑田 岩雄 海軍情報部嘱託 中田 某
阪大教授 浅田常三郎 阪大 大尾崎 誠之助
2. 爆発後数日間に行える広島市の放射能学的調査に関する報告 5
京大教授,理,物理 荒勝 文策
第1次調査 調査隊員 荒勝 文策 木村 毅一 清水 栄
故花 谷 暉一 上田 隆三
第2次調査 調査隊員 清水 栄 石制 隆太郎 高木 一郎
近藤 宗平 高瀬 治男 青木 宏一
石崎 可秀 上田 隆三 本道 栄一
第3次調査 調査隊員 木村 毅一 西川 喜良 高井 宗三
堀 重太郎 故花 谷 暉一 村尾 誠
3. 長崎市における残存放射能 11
京大教授,理,物理 荒勝文策 調査員 林 竹男 調査員 西川 喜良
4. 広島における人骨中に生じた放射性磷 P32 について 16
理研,副研究員 山崎 文男 副研究員 杉本 朝雄 副研究員 木村 一治
5. 広島における硫黄中にできた放射性磷 P32 について 18
理研,副研究員 山崎 文男 副研究員 杉本 朝雄
6. 広島原子爆弾1次速中性子数の決定について 19
理研,副研究員 杉本 朝雄
7. 原子爆弾よりのおそい中性子の大气中における拡散と吸収 20
理研,副研究員 玉木 英彦 助手 浜田 達二
8. 原子爆弾爆発後広島西方に残つた放射能について 25
理研,副研究員 山崎 文男
9. 原子爆弾により生じた広島市内およびその附近の放射能について(その1) 34
理研,副研究員 宮崎 友喜雄 副研究員 佐々木 忠義 助手 池田 正雄
10. 原子爆弾により惹起された広島市内およびその附近の放射能について(その2) 35
理研,副研究員 宮崎 友喜雄 助手 増田 時男
11. 長崎およびその隣接地区における原子爆弾による放射能 38
理研,助手 増田 時男 助手 坂田 民雄 助手 中根 良平

『原子爆弾災害調査報告』全5冊 概要

十五年戦争重要文献シリーズ一覽【分売可】

表示価格はすべて税別

●原本

- 原子爆弾災害調査報告書 総括編 一九五一年刊
- 原子爆弾災害調査報告集 第一分冊 一九五三年刊
- 原子爆弾災害調査報告集 第二分冊 一九五三年刊

●原本編著者

日本学術会議 原子爆弾災害調査報告書刊行委員会

●復刻版解題

大滝英征(元 埼玉大学工学部教授)

●復刻版体裁

B5判・上製・函入・総一、七九四頁

●推薦

西田 勝(文芸評論家・非核ネットワーク代表世話人)
矢吹 晋(横浜市立大学名誉教授)

●配本

- 第1回配本 総括編 第1冊 本体価格1,500円+税
[2011年8月刊] ISBN978-4-8350-7201-2
- 第2回配本 第一分冊 第2冊 本体価格1,500円+税
[2011年10月刊] ISBN978-4-8350-7202-9
- 第3冊 本体価格1,500円+税
ISBN978-4-8350-7203-6
- 第4冊 本体価格1,500円+税
ISBN978-4-8350-7204-3
- 第5冊 本体価格1,500円+税
ISBN978-4-8350-7205-0
- 第3回配本 第二分冊 第4冊 本体価格1,500円+税
[2011年11月刊] ISBN978-4-8350-7200-5
- 第5冊 本体価格1,500円+税
ISBN978-4-8350-7200-5

●揃価格 本体61,500円+税

① 軍医官の戦場報告意見集

高崎隆治編・解説
200頁 本体価格3,000円

② 『集報』

—南京日本人収容所新聞
山中徳雄編・解説
150頁 本体価格2,500円

③ 中華民国よりの
掠奪文化財総目録

422頁 本体価格7,500円

④ 興亜青年勤労報国隊
東朝義記録

北 博昭編・解説
297頁 本体価格5,500円

⑤ 火焰樹—東南アジア強制労働
下の機関誌

北 博昭編・解説
286頁 本体価格5,500円

⑥ 軍紀・風紀に関する資料

額編 厚編・解説
164頁 本体価格4,500円

⑦ 支那駐屯憲兵隊関係
盧溝橋事件期資料

北 博昭編・解説
300頁 本体価格7,500円

⑧ 俘虜情報局・俘虜取扱の
記録(付)海軍兵学校『国際法』

茶園義男編・解説
420頁 本体価格1,500円

⑨ GHQ(元帥)処刑命令書
(上・下)

茶園義男編・解説
803頁 本体価格28,000円

⑩ 昭和十年前後期
支那駐屯軍憲兵部文書

北 博昭編・解説
266頁 本体価格9,000円

⑪ 朝鮮徴兵準備読本

金英達編・解説
120頁 本体価格4,500円

⑫ 特殊労務者の労務管理

飛田雄一編・解説
300頁 本体価格7,500円

⑬ 大東亜舞台芸術研究所
関係資料

藤田富士男編・解説
140頁 本体価格4,500円

⑭ 満州建設勤労奉仕隊関係資料

北 博昭編・解説
626頁 本体価格18,000円

⑮ 『中国人日本留学史稿』

小川 博編・解説
230頁 本体価格5,500円

⑯ 興亜学生勤労報国隊関係資料

北 博昭編・解説
598頁 本体価格17,000円

⑰ 興亜院刊行図書・雑誌目録

井村哲郎編・解説
300頁 本体価格7,500円

⑱ 久米島住民虐殺事件資料

吉浜 巖編・解説
210頁 本体価格6,500円

⑲ 学生義勇軍関係資料

北 博昭編・解説
325頁 本体価格1,500円

⑳ 二・二六事件 警察秘録

北 博昭編・解説
380頁 本体価格16,000円

不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘一丁目二二
TEL 03-3821-4433
FAX 03-3821-4464
振替 〇〇一六〇二一九四〇八四